



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2012-2013 年度 No. 8

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2012-2013 年度 会長 河合耕一、幹事 上田昭二

2012-2013 年度 RI テーマ



「奉仕を通じて 平和を」

(田中作次会長)

例 会 記 録(ガバナー補佐事前訪問)

第 1 6 3 4 回例会

平成 2 4 年 8 月 2 2 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. ソング：四つのテスト
3. ゲスト：小西勝 2012-13 年度第 2610 地区富山第 3 分区ガバナー補佐 (東となみ RC 会員)



4. 会長の時間：仕事に追われ気味。オリンピックメダリストのパレードに 50 万人も集まったという。この人数は富山県人口の半分。歩道や交差点も詰まった。驚きである。赤いユニホームが印象的であった。
5. 幹事報告：①9 月のロータリーレートは、1 ドル=80 円と本部より連絡あり。②9 月 3 日(月) 2 RC 合同ガバナー公式訪問 18:00 『ふかまつ』。バスを出す。③マーシ園納涼祭の御礼状届く。会長出席されました。④クラブ例会変更は、事務局に確認を。積極的にメイクアップを。
6. 委員会報告：①米山記念奨学会 (斎藤 R 財団委員長・

特別寄附と普通寄附がある。普通寄附 1 人 1 万円。特別寄付は 10 万円で功労者となれる。次年度の表彰対象。今回の小西会員は、この特別寄付をされた。【もう一つ、当クラブには、頼母子講の形の 6 人での 6 年かけての特別寄付基金があります。(山本：補足)】それから、先日、米山記念奨学金委員会の研修会があったが、寄附の集め方や使われ方の話題が多かった。②出席委員会：本日 20 名中 16 名出席 (80.00%)

7. ニコニコBOX(SAA：本日 7 名 9000 円)

小西ガバナー補佐：ガバナー補佐事前訪問に参りました。高岡 RC、砺波 RC を終え、少しは慣れたかな？という頃ですが、ホームクラブとなると又、別の緊張があります。今日は記念に米山功労金を提出しました。

河合会長：暑い日が続いています。仕事に追われ、選挙の関係の仕事にも追われ、精神的ストレス大変です。

横山豊介会員：小西ガバナー補佐さん、公式訪問有難うございます。

高瀬会員：猛暑の残暑が続いています。今日は小西ガバナー補佐初訪問の日ですが、所要のため早退します。ごめんなさい。

上田会員：小西ガバナー補佐、いつもの堅苦しい事前訪問でなく、リラックスしてご指導をお願いします。

齋藤会員：一週間前から稲刈りをしています。毎日暑くて嫌になります。来週は高源さんの担当教授のゲスト卓話を予定しております。皆様のご出席をお願い申し上げます。

山本会員：走行距離六年で15万kmの愛車が故障しました。代車生活が二週間になります。部品が欠品でなかなか戻りません。今度の日曜、娘の最後の剣道応援に行きます。長谷川先生、コンサートのチケット有難うございます。



卓話「Change — Back to the Basic (基本に戻る)」

小西勝ガバナー補佐

小西ガバナー補佐：ホームクラブでのガバナー補佐としての卓話の前に、自己紹介から始めさせていただきます。高岡 RC と砺波 RC で卓話を終え、少しは慣れました。最後まで、よろしくお願いします。

(卓話抄録)

自己紹介 (小西勝)

私は、昭和19年(1944年)7月25日生まれです。男3人女3人の6人兄弟の末っ子です。出生地は庄川町。当時神奈川県川崎市で建築請負業を営んでいた父の故郷、すなわち疎開先でありました。元来私の祖父は、大正の始め頃まで庄川の湯谷温泉を営営していましたが、父は温泉の跡を継ぐのが嫌で建築請負士になったということでした。昭和24年頃、私は両親と共に井波に移りました。父は骨董商と土地建物周旋業を開業し、一代限りの思いで営業していたようです。私は福野高校を卒業後就職したのはYKKでしたが、在学中に偶々創始者の吉田忠雄さんの自叙伝「善の循環」を読んだのがきっかけでした。善の循環

については後述しますが、YKKを2年間で退社し、その後高岡市小馬出町の若井繊維株式会社という洋服問屋に就職しました。そこで多感な青年時代を4年間過ごしたわけです。卒業以来都合6年間、会社務めを勉強した後、父の家業を継ぐべく帰郷し今日に至っております。

ロータリー歴は37才の時1982年に入会しましたので、満30年経ちました。現在皆出席を続けております。皆出席は健康であった証、又協力してくれた妻の支えの賜と思っています。幹事、会長各々2回ずつ経験しました。これも少人数のクラブの特徴であります。早く会長になりたい人は是非東となみRCへどうぞ。

『吉田忠雄氏自叙伝 「善の循環」より抜粋』

善の循環による成果は決して独り占めしてはいけません。三分配するのだ。ひとつは、よりよい商品を安く提供することでお客様に。ひとつは、販売、流通など共に努力している関連産業に。ひとつは、会社がいただく。会社がいただいた分は再び三分配する。

- 1、社員の豊かで幸せな生活のために還元する。
- 2、税金を納めることで、道路や下水が整い国民生活が向上する。
- 3、新しい設備に投資し、事業を継続発展する。

つまり、個人や企業の繁栄がそのまま社会の繁栄とつながっていく。ちょうど、池に石を投げると波紋が大きな輪になって広がっていくように「循環」していくのである。

彼はカーネギを信奉しており「善の循環」というのを常に言い、「他人の利益をはかって、初めて自らも繁栄するのだ」という思想です。それを最もよく表しているのがオイルショックの時のエピソードです。彼は取引先の人達を集めてこう言いました。

「我々が百億円の損失をかぶる。だからみなさんは出し惜しみや値上げはしないでほしい」

消費者に製品を供給するために、メーカーが泥をかぶらずにどこが責任を取るのか、というのが彼の哲学であったのでしょ。

『Into Their Shoes について』

先輩の語録

吉田忠雄さんの善の循環を述べていて、先輩のロータリ

一語録を思い出しました。

昔、テレビ旅番組の中での話ですが、安芸の宮島で数十年間、白木の杓子を作り続けている老人が、インタビューに答えて語っている言葉であります。

「私はこれを使う人の身になって作っているだけで、これを商売と考えるからおかしくなってくる。」

この老人は、ロータリーのロの字も知らぬはずなのに、100年以上も前からロータリーが求め続けてきた職業奉仕の真髄を語っていました。それは私達ロータリーアンが事あるごとに真面目顔で、「職業奉仕とは何か」を論じ、結局は「難しくてよく解らない」という結論にたどり着く職業奉仕の根本理念を、この老人はさりげなく言っていたのです。

「相手の身になって」という言葉は、ロータリーの最も好きな言葉で、実に50年近くも前から取り上げられている言葉であります。因みに、ロータリーが最も嫌っている言葉は、「がめつく儲けてきれいに使え」であります。職業奉仕の本質を説明する言葉のひとつに次のような言葉を聞かれたことがあると思います。

「買う身になって物を売り、使う身になって物を作り、受ける身になってサービスをする」

この「相手の身になって」の事をロータリーでは **Into Their Shoes** と呼ばれています。

『中尾ガバナーのこと』

中尾哲雄氏（富山みらいRC 特別代表）

昭和11年生 1995-1996 富山西RC 会長

1997 富山みらいRC 設立メンバー

「地酒で乾杯する会」の会長であり、宴会の締めには『故郷』（長野県飯山市出身 高野辰之作詞、島根県鳥取市出身 岡野貞一作曲）を熱唱されるとか。（因みにRソングの「我等の生業」もこの二人の作品であるとガバナーより伺いました）

「ふるさと」は誰もが「心のよりどころ」であり、「心の根っこ」に又、「ふるさと」がある。と熱く語られるガバナーの胸中には、いつも生まれ育った魚津の山の手の美しい日本の風景が描かれているのでしょう。お話される時の口調は決して気取らず、いつも自然体で、そして豊かな人生経験を踏まえて人情味があふれています。私はこの方の補佐であることがつくづく勉強になったと思うのであります。



『ガバナーの方針』

「超私の奉仕」は人生みな自分だけでは生きていけないということを教えてくれています、

*クラブの強化

「楽しみ」は必要ですし、ロータリーの一部でもあります。しかし、楽しみは2番目であり、一番大切なのは「仕事」です。会員は皆ロータリーを楽しんでいます、最も大切な事、つまり私達がここに居るのは仕事であり、奉仕であり、私達が周りに与える影響でなければなりません。

*計画から戦略へ

運営の工夫（世界の70%は夜の例会）、会費の見直し（食事なし）、35才以下の会員の会費免除や減額、3分間スピーチの訓練（心に残るロータリー体験を3分間で説明する、これが仲間を広げる力となり、スピーチ向上となる）新会員の勧誘と現会員の維持が重要。毎年10万人が入会し、10万人以上が退会しています。

（2610地区の目標）

- ① 基本的なロータリーの考え方で（色々な事を）学ぼう。ロータリーの目的、職業の根っこにサービスの理念を置くこと。（地区研修委員会、IMなどで…）
- ② 誠実な職業の理念のもとビジネス交流を図ってゆこう。自らが高い倫理を求め、事業の道德水準を高める。（価値判断を損得より善悪で）

③ 元気なクラブをつくってゆこう。

- 1、新しいビジネス分野を発掘して職業分類表を大きくしていく。
- 2、会費免除も検討する。
- 3、地域の為に何ができるか考えよう。
- 4、クラブに「財団の未来夢計画」を理解して頂く年である。
- 5、米山奨学生を一人でも多く支援したい。一国に偏らないで多くの国と交流する。
- 6、各会員がロータリーの良さを自分の言葉で説明できるように。
- 7、ロータリーについての問題点、改革、その方向等について考える機会を持ってほしい。地区として「ロータリーを考える委員会」を設置する。

『どうでも よくないこと』 (先輩からのメッセージ)

『ロータリークラブは奉仕活動をしているのに、奉仕団体ではない。財団や奨学会に寄付しているのに、寄付団体ではないという。ロータリーは宗教ではないというのが綱領やら、4つのテストやら、難しいことをいうところは、どこか、宗教に似たところもなくはない。では一体ロータリークラブとは何なんだ』

これは前池田茂ガバナー補佐の卓話の中の一節である。知ったかぶりではなく、自分の思いを素直に述べられた池田氏の実直さに皆好印象を受けた。

『ロータリー入門書』の中にこんな一節がある。

「ロータリークラブは、奉仕をする団体ではなく、奉仕する人々の集まりである」

先ほどの池田氏の疑問を解き明かすヒントがこの一節の中にあると思われる。ロータリーを構成する基本主体がロータリーアン「個人」から「クラブ」組織へと変遷して出来た副産物のようなものだ。員数集めだけの会員増強はロータリーアン個人の人格や個性は軽視され、数だけで全てが評価される風潮をつくりあげた。その結果、個人としての自覚と責任感は薄れて、みんなで渡れば怖くない、みんなで行こうどこまでも、と組織で行う活動が主流になっていった。悪いことではない。

決して安くもない会費まで払って入会している自分たちの会が、一体どんな会なのか、よくわからないでは、笑

い話にもならない。これだけは、何としてもはっきりさせておきたいものである。

『例会について』 (先輩からのメッセージ)

ロータリーの最もロータリー的なものといえば、それは『例会』であることは間違いありません。「ロータリーの原点は例会にある」というのも真実のようです。

しかし、又その一方では「確かにロータリーは素晴らしい。しかし、例会がなければもっと素晴らしい」という笑い話もあるようです。

我々ロータリーアンにとって、毎週の「例会」は決して笑い事ではなく、深刻かつ重要な問題であります。ロータリーにとって、「例会」というものがどういう意味をもっているかは各人各様、色んなとらえ方がありますが、「例会は儀式にあらず」……砂漠の中のオアシスのようなものである。

- ・ 例会の出席は「童心にかえる」ことが出来る (ポール・ハリス)
- ・ 例会は「楽しみながら修練を積む道場」である (米山梅吉)
- ・ 例会は仕事の緊張から解放され、リラックス出来る息抜きの1時間である。
- ・ 例会は奉仕の精神を充電する1時間である。
- ・ 例会はロータリーの本質である「親睦から奉仕へ」の出発点であり、ロータリーの基本活動である。
- ・ 例会への出席は健康のバロメーターである。
- ・ 例会は異業種の人達との情報交換の場である。

『退会の理由について』 先輩のメッセージ

6人の盲人が、象がどの様なものかを見ようとしたこんな話があります。

- ① 最初の盲人は、象の固い胴を触ってみて、象とは壁のようなものだと言いました。
- ② 次の盲人は、象の牙に触れて、槍のようなものと叫びました。
- ③ 3人目の盲人は、鼻を撫でてみて、象とは大蛇のようなものと断言しました。
- ④ 4人目の盲人は、太い脚の一本を撫でてみて、象は大

木のようなものだと言いました。

- ⑤ 5人目の盲人は、たまたま耳に触れ、団扇によく似ていると主張しました。
- ⑥ そして、最後の盲人は、確信を以って、象は綱のようなものだと言いました。彼は象の尻尾を掴んでいたのです。

これは、ポール・ハリスの自著、「This Rotarian Age」の中に出ている引用文であります。

「ロータリーにはメリットがない」とか、「魅力がない」と言っ辞めていく人はどこかこの盲人に似ているところがあります。この盲人達は、それぞれ少しずつ正しいところがありますが、全体的に言えば、みな間違えているのです。例会や、F.S.M.のようなロータリーの一部分だけを見て、これがロータリーだと思ひ込む悲しい人達でもあります。

世の中には、人間の眼以外のもので見なければ見えないものがあると言われます。ロータリーは正にその典型といえましょう。ロータリーを理解するには、10年ほどかかると言われています。そして、一旦ロータリーが理解出来れば、その人は健康の続く限り絶対にロータリーをやめることは無いと言われています。

『Think. Change and Love Rotary』先輩のメッセージ

2012-2013 2610地区の中尾ガバナーの方針の中に Change とありますが、ロータリーの原点ともいべきその本質は、変わることはないと確信しています。ロータリー会員が、短期間の内に辞めていく理由のひとつに、ロータリーを正しく理解していないことがあげられます。全てあらゆるものには、目に見える部分と、隠れて見えない部分とがあります。その目に見えないところに、実は本当の姿を発見する機会が多くあるように思われます。ロータリーのその真の意味を、情報として伝えることは正に退会防止の特効薬であると考えています。

ロータリーに入会して、30年を振り返ってみますと、その変わりようの大きさにはただ驚くばかりです。ポール・ハリスはその自著「ロータリーの理想と友愛」の中で「ロータリーは完全なものではない、時代と共に変化していくであろう」と、はっきりと予言していますが、果たし

て、ここまで変わると想像していたでしょうか。

私は、今年度この役目をいただいた機会に、改めてロータリーの精神の基本を再確認しながら、今何をチェンジすることが必要なかを皆さんと共によく考えてみたいと思います。(以上)



(ガバナー補佐事前訪問に際して)

ガバナー補佐の卓話を終えて、斎藤会員より、一般会員にも分かりやすいように、ガバナー補佐事前訪問での、会長・幹事懇親会の内容を聞かせてほしいという要望がありました。次年度の会長エレクトや幹事予定者も、その内容を聞いておく方が次年度につながるためにということで、河合会長から、その懇親会の内容(当クラブの会員の状況、奉仕活動の状況など)を話されました。

(編集後記)

今回の卓話に際して、小西ガバナー補佐には、抄録をCDで事前に頂きました。卓話記録を作成するに当たり、大変助かりました。感謝申し上げます。今後、皆様のご協力がこのように得られれば、会報委員長・副委員長ともに、大変嬉しく思います。(長谷川・山本)